

主日礼拝 2021年2月28日(日)

題 『罪を赦されるイエスさま』

テキスト：マルコによる福音書2章：1～12節

先日、散歩をしていまして畑のそばに土筆がたくさん生えていました。春が来るんだな～とうれしくなりました。

さて、今日の聖書の個所はイエスさまが中風（ちゅうふう）の人を癒された場面です。

中風とは、脳出血などによって起こる、半身不随、手足のまひなどの症状の病気のようなのです。古代から現代においても起こる病です。

主イエス一行がガリラヤ地方を巡って神の国を言葉と愛の行動で宣教して、伝道を開始したカファルナウムの町に帰って来た時のことです。

1:数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、

聖書には書いてはないのですが、イエスが高熱の病気を癒された、ペトロのしゅうとめの家なのかもしれません。この時すでに、イエスさまの名前はガリラヤ地方に知れわたっていたようです。

家には

2:大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになっ

たのです。イエスを見ようと多くの人が歩まって来ていたのです。思い出すのは、子どもの頃のこと、テレビが我が家に来た頃、近所の人たちが、プロレスがあるとそれを見るために大勢集まっていた光景です。座る場所がないくらいに密状態でした。わたしもそうですが、人は関心のあることには出向くのだと思います。

「イエスが御言葉を語っておられると」とあります。その家でイエスさまは、御言葉、つまり天と地をお創りになった神さまのこと、得に神さまの愛を語っておられたのです。

春が必ずやって来るように、雨がすべての人に降り注がれるように、神さまの愛は、すべての人に昔も今も注がれているのです。

そしてその家に、

3:四人の男が中風の人を運んで来たのです。

人々が夜寝る時、寒さ除けに使う大きな布をテントがわりにして運んで来たのかもしれません。

4:しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったのもので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病

人の寝ている床をつり降ろした。

案の定、家の中は先客の群衆でいっぱい、彼らは入ることはできなかつたのです。あきらめても仕方がないのかもしれませんが、彼らはあきらめませんでした。何としても、どうにかしてイエスの元に、中風の男を連れて行きたかつたのです。約2000年前当時のパレスティナ地方の家の屋根はテラスのように平らで、屋根は木の枝などの上に粘土を約30センチほどの厚さに置いて、固めたものだったとのこと。4人は、家の外にある階段から上へのぼり屋上から土をはいで病気の人をイエスにもとにつり下ろすことができたのです。4人は、何としても病人をイエスの元に連れて行きたかつたのです。イエスさまだったら癒せると確信していたのです。

「愛は常識を超える」と言われます。また「愛は困難を切り拓くアイデアを産む」のです。

家の中にいたイエスさまは、4人の男と、自分の元につり降ろされて来た人を見て、彼らの思いを理解され、受けとめられたのです。

5:イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。のです。感動的なことばだと思います。

ここでは「その人たちの信仰を見て」と言われています。彼らは、病気の人にも、まだイエスを救い主と告白したわけではありません。

4人の人の、病人をイエスの元に連れて来た思いとその一途でひたむきな行動をみて、イエスさまは心動かされたのです。それが「その人たちの信仰を見て」です。そして「子よ、あなたの罪は赦される」と言われます。この場合の「罪」は複数型が使用されています。日常の中で人間が犯すことのある、あの事この事の罪です。単数の罪もあります。それは、人間が神さまという本来の目的をはずして、自己本位に生きる存在であるということです。この罪は、神と人との関係を壊してしまう罪です。この罪は神の子イエスの愛によって、十字架の愛によってのみ、関係回復が可能となったのです。

多くの日本語訳聖書では「子よ、あなたの罪は赦された。」と訳されています。

イエスさまは、この人を「病人」である前に「子よ」と呼ばれます。神さまの愛する大切な子なのです。その人が病気になっているのです。

「あなたの罪は赦された。」とイエスさまは言われました。神さまの心を知っておられるイエスさまの宣言です。愛から来る先取りの宣言だと思います。

ヘブルライ人への手紙11章1節(P414)の言葉を思います。「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。」とのことばです。

イエスさまに出会った時に、罪は赦されたとの宣言です。神さまと、イエスさまの心でなったことは、必ず実現するということです。愛の宣言です。

しかし、残念なことですがこの事態を喜ばない人たちもそこにいたのです。当時の聖書の専門家、先生と呼ばれていた旧約聖書の専門家の人たちです。

6:ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。

7:「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」と心の中で考えてイエスに不満を持っていたのです。

イエスさまは、人の心の思いを見抜く力を持っておられます。昔もそして今もです。人は外側を見る。神は心の内を見られるのです。

外側も整えることは大切だと思いますが、外側だけをきれいに美しくしていても、心の中が汚れていては神さまの前には台無しなのです。憎みや嫉妬、争いや自己憐憫。自分のことに捕らわれすぎる事です。心がゴミ箱状態ではいけないのです。でも大丈夫です。わたしたちはイエスさまによって、御霊なる聖霊によって心も清めて頂けるのです。その時、心に安心と平安が戻って来ます。そのためには、静かにして、神さまとイエスさまの名を日に何度でも呼ぶことを意識して生活するのです。8:イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。

9:中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。

10:人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。

主イエスは神の子であり、全き愛の方であるがゆえに、罪を赦す権威を神さまから与えられている方なのです。11:「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」12:その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行った。

中風の方は、イエスさまに癒されて新しく生きて行くことができるようになりました。わたしたちもそうなのです。たとえ一度や二度、三度倒れてもイエスさまにつながって新しく、生きて行くことができるのです。

人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。中風の人を見ていた人たちが、神を賛美する人へと変えられていくということが起こったのです。今日においても、イエスさまに出会った、わたしたち一人ひとりを通して、神さまの愛の働きは、家族の中に、地域の中に確実に広がって行くのです。そのことを祈り願って、小さなことを感謝しながら、小さなことに主にある愛を込めて奉仕して行くわたしたちであり教会でありたいと願います。

◆中風の人をいやす

- 1:数日後、イエスが再びカファルナウムに来られると、家におられることが知れ渡り、
- 2:大勢の人が集まったので、戸口の辺りまですきまもないほどになった。イエスが御言葉を語っておられると、
- 3:四人の男が中風の人を運んで来た。
- 4:しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかったので、イエスがおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした。
- 5:イエスはその人たちの信仰を見て、中風の人に、「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。
- 6:ところが、そこに律法学者が数人座っていて、心の中であれこれと考えた。
- 7:「この人は、なぜこういうことを口にするのか。神を冒瀆している。神おひとりのほかに、いったいだれが、罪を赦すことができるだろうか。」
- 8:イエスは、彼らが心の中で考えていることを、御自分の霊の力ですぐに知って言われた。「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。」
- 9:中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。
- 10:人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。」そして、中風の人に言われた。
- 11:「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい。」
- 12:その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆のしている前を出て行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。